

学会に参加した時の楽しみの1つに、会場内のポスター発表・器械展示ブース脇に併設されている書店での「書籍巡り」がある。医学書や医学関連の雑誌はなかなか普通の書店には置いてないし、いわんや小生の勤務する「順天堂大学静岡病院」は、静岡といっても東部・伊豆半島の付け根にあり、書店自体も数が知れている…(泣)。なので、最新の医学書籍を手にとって、実際に中身を確認できるのはこういった機会しかない。学会発表や聴講の合間に、休憩コーナーでコーヒーをもらいポスター・展示ブースをぶらついたら、たいてい最後に書店を訪れる。通常、国内の(日本語の)医学書・雑誌を中心に見て回り、気になるものはクレジットカードで購入して、まとめて医局に郵送してもらう。時には海外の(英語の)書籍を手に取り、パラパラとめくって眺めてみるが…。残念ながら、小生は英語が苦手である。医学部受験も英語が科目にないか極力配点が低い大学を選んだくらいであるため、購入に至ることは殆どなかった…(汗)。ただし、今から10年くらい前、小生の専門とする「骨折治療」に関する一冊の海外書籍が目にとまった。ページを開き中身を見て、目が釘付けになった。文章は少なく、数多くの写真とイラストで構成された書籍でなんと小生向きであったが、それ以上にそこに映し出されている術後X線画像のなんと美しいこと!!! ページを閉じ、表紙を見返した。そこには「Harborview Illustrated Tips and Tricks in Fracture Surgery」と記されていた。思わず書店員さんに「これも追加で!」と叫んでいた…。それが小生と本書(第1版)との出会いであった。

本書は、シアトルにあるワシントン大学(UW)ハーバービューメディカルセンター(HMC)の整形外科外傷教育プログラム(Advanced Clinical Experience: ACE)を終了した医師(ACEs)が、その研修中に経験した骨折治療のヒント(tips)やコツ(tricks)を丹念に記録していたものをまとめた実践マニュアルである。指導医(Faculty)の考え方や繰り出すテクニックの詳細が、豊富な写真やイラストと共に解説されている。ここにアメリカの、いや世界の、整形外科外傷医療をリードするHMCにおける骨折手術治療の真髄が示されているといっても過言ではない。そして、第1版出版から約9年が経過した2019年、それまでの間にHMCを巣立っていったACEsが持ち寄った新たな知見を大幅に追加した卒業生版(第2版)「2nd Alumni Edition」が上梓された。

本書では、体位・透視装置セッティングなどの術前準備や術中アライメント評価、開放骨折・コンパートメント症候群や骨欠損・感染の管理、といった総論的項目から始まり、脊椎・手部以外の全身各部位の骨折手術治療手技の実際(各論)を多彩なTipsを織り交ぜて解説し、最後に下肢創外固定の実際、ならびにその他の有用な手術手技(抜釘を含めた)を紹介している。内容・画像ともに非常にクオリティが高いことで知られる書籍であり、整形外科医のなかでも、特に骨折治療・外傷を専門とする医師から厚い信頼を得ている名著である。しかし、日本国内では輸入版(英語)しか販売されておらず、本書を通読するうえで「日本語で正確なニュアンスをしっかりと把握したい」という思いは、決して小生だけのものではないと思っていた。そんなとき、懇意にしていた羊土社に翻訳版(日本語)出版を打診したところ、幸いにも快諾を得ることができた。喜びもつかの間、いざ翻訳となったところで、英語が苦手なことを思い出し、日本の名だたる整形外科医に原稿の下訳チェックをお願いすることとした。その後、いただいた下訳をもとに、原書の伝えたい内容を詳細に検討し、そのうえでわかりやすい日本語を意識して、全文再翻訳作業を行った。果たして、Harborview流の骨折治療を、より正確により早く学ぶための「ガイドブック(虎の巻)」のような書籍になったものと自負している。この翻訳本が、今まさに、またこれからも、骨折治療を真剣に追求していこうと考えている日本全国の整形外科・外傷医の日常診療の一助になれば幸いである。

最後に、度重なる下訳修正にご協力いただいた訳者各位、ならびに原稿校閲における細かな指示に的確に対応してくれた羊土社編集者の大家さん・横内さん、そして、夜な夜な慣れない英語原稿と格闘する小生を暖かく見守ってくれた妻、翻訳に際し的確なアドバイスをくれた英語堪能な息子、全ての方々に心から感謝致します。

2021年3月

順天堂大学医学部附属静岡病院整形外科  
最上敦彦